

兵庫 県
保険医協会西宮
芦屋 支部ニュースNo. 369
2024・2・15

発行

連絡先

〒662-0832

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

兵庫県西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内

兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

追悼

森下敬司先生を偲んで



とは何か」を企画。その時代にあつてテーマの設定に先見の明。85年3月に岡村氏が亡くなられた時には東京―青山の葬儀所に駆けつけられました。

支部設立10周年記念にはヴァイオリニストの松野迅氏の演奏とC・W・ニコル氏を招いての講演の企画。協会組織部では各地の支部づくり―空白地域克服に尽くされ、審査指導対策では93年10月の富山での個別指導事件で直ちに現場に向かい、尼崎支部の鈴木克司先生と私が同行。その帰りの車中、乗客の女性に暴力をはたらいた巨漢に先生は敢然と立ち向かい取り押さえ、鉄道警察隊に引き渡すという武勇伝がありました。

西宮・芦屋支部創設メンバーとして当初から世話人を務められ、2004年からは支部相談役を務めていただいた森下敬司先生が2023年12月5日にご逝去された。92歳だった。

支部副支部長の広川恵一先生の追悼文を紹介する。

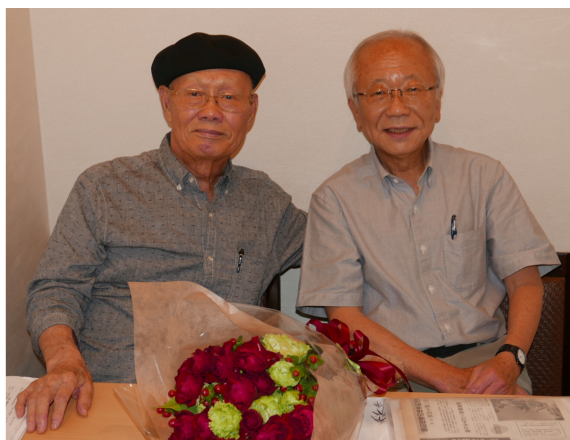
「この本は病室で父が最後に読んでいたものです。これを先生に…」と先生のお嬢さんから手渡していただいたのは、城山三郎の『少しだけ、無理をして生きる』。読書家で城山三郎を愛読される先生が病室で手元に置かれていたもの。書名の意味は「挑戦し続けること」。最後に開かれていた頁の章は「自ら計らわず」。意味は「自分の利益になるようなことを求めない」。ともに森下敬司先生の人生を象徴するものでした。

昨年10月発行の「西宮・芦屋支部40年の歩み」表紙書は森下先生、表紙絵は半田伸夫先生。そこには支部40年の歴史とそこに重なる先生の凛としたお姿を垣間見ることが出来ます。

私が森下先生とはじめてお会いしたのは88年1月、東京での保団連大会でした。以来35年、先生には何かにつけ相談し、教えを受けてきました。

先生は61年8月に開業。この頃、時間外患者さんはなんと年間349人。そのうち日曜・祝日に129人、深夜は97人で3・4日に1回は深夜の対応という激務。

69年6月に本協会の設立に参加。81年11月の西宮・芦屋支部設立総会記念市民講演会には岡村昭彦「バイオエシックス



支部40年史インタビューでの1枚
左が故・森下敬司先生、右が広川恵一先生

95年1月の阪神・淡路大震災では支部の震災対策本部づくりを支えられ、20先生に「『健康と医療について語り合う会』の講師になってもらうように」と常に指示を受けました。診療報酬改定では先生の医院に担当世話人・事務局スタッフが集まり深夜まで検討会。先生は「協会の診療報酬研究会は点数を説明するためでなく、改定を通して日本がどのような医療に向かうとするのか批判的に明らかにする場」と常々語られました。但馬支部との支部間の交流では故新田誠先生と肝胆相照らす古武士を思わせるお二人でした。

この前年の第3回日常診療経験交流会では「1枚の診断書から―アルブライト症候群」を報告。「診断書作成の場合は、たとえ検査値に多少の異常がみられても、あくまで本人が生活者であるという立場を考慮して、総合的な視野での検討が必要」との貴重な指摘をされました。

「新規開業医懇談会」の開催と新規の先生に「『健康と医療について語り合う会』の講師になってもらうように」と常に指示を受けました。診療報酬改定では先生の医院に担当世話人・事務局スタッフが集まり深夜まで検討会。先生は「協会の診療報酬研究会は点数を説明するためでなく、改定を通して日本がどのような医療に向かうとするのか批判的に明らかにする場」と常々語られました。但馬支部との支部間の交流では故新田誠先生と肝胆相照らす古武士を思わせるお二人でした。

02年2月の協会薬科部設立を故朝井榮理事長と共に果たされました。西宮・芦屋支部東日本大震災被災地物産・物品展にはいつも顔を出され、待たせていた運転手さんに購入した物産品を「はい、お土産」と手渡されていました。

「慢性疾患の診療では必ず変化がありそれを見落とさないように」「いくら疲れていても、急いでいても、それを理由に一番最後の患者さんを決して疎かにしないこと」など教えられ、これらの言葉を毎日の診療で必ず思い返しています。

「啐啄同時」「最後は人間関係」「志の通じる人たちとのひとときは励まされます」。先生の口癖は「駄弁りましょう」。

故朝井先生とお二人を中心に、故池内春樹先生、故八木秀満先生、林田英隆先生、北井明先生、清水映二先生たちと「清談会」と称して飲み会を開いたものでした。

21年9月22日、開業60年をもって先生が閉院される日。多くの患者さんたちで待合室は一杯。藤田誠治事務局長、支部担当の山田友道事務局員とともに忘れたいひとときでした。翌月のある夕べに、先生を芦屋川畔のイタリアンレストランにお誘いし、ゆっくりとした時を過ごす中、「至福の時間です」とのお言葉をいただきました。

先生は私にとって永遠の師であり、ロールモデル。「少しだけ、無理をして生きる」、「自ら計らわず」。今日も私の心の中の先生に、これまでと変わらず日々の相談をさせていただいています。

(西宮市・広川内科クリニック 広川恵一)

西宮・芦屋支部(環境・公害対策部共催)市民学習会

汚染水海洋投棄―
下北半島六ヶ所村再処理工場―日本の核政策

講師 小出 裕章 氏

(元京都大学原子炉実験所助教)

日時 2024年 3月16日(土) 14時30分～(Zoom併用)

会場 兵庫県保険医協会5階会議室

(JR・阪神元町駅から南に徒歩約8分)

※来場、Zoomとも事前のお申込みをお願いします。

Zoomでのお申し込みはこちら→



お問い合わせ・お申込みは協会事務局 伊地知・山田まで
TEL: 078-393-1840 E-mail: idichi@doc-net.or.jp

英語で診療Medical English #58 動悸 感想文

長く続いていることが納得の魅力ある研究会

西宮・芦屋支部は、11月10日(金)、西宮医療会館にて、「話せる英語で診療Medical English#58 Role Playingシリーズ②「Palpitations=動悸=」を開催。医師・薬剤師・医療通訳ら9人が参加した。

アドバイザーを務めた西宮市の伊賀内科・循環器科の伊賀幹二先生の感想を掲載する。

故・坂尾 福光 先生が始められ、半田先生に引き継がれた今回で58回目のこの医療英会話シリーズに循環器アドバイザーとして参加した。

発作性心房細動の58歳の男性が今回の題材であった。参加者は約10名で、イギリス人のConroy先生と司会の半田先生のトークから始まった。

患者と医者スキットの最初の草稿は半田先生が作成され、私も見させていただいたが、その後Conroy先生に大きく添削されており、半田先生はこの用意にかなりの時間を割いていることがよくわかった。



アドバイザーの伊賀先生がまとめを行った

研究会ではConroy先生が順番に参加者の発言を求め、みんなが発言できるような雰囲気になっていてよい講演スタイルであると感じた。心房細動関連のテクニカルタームが多い中、参加された方の発音の美しさに感心した。長く続いている勉強会にはそれだけの魅力があるのだということを実感した。

最後に専門医として「発作性心房細動はどういう疾患か」ということを説明する機会をいただいた。診断には病歴が必須であり、加齢とともに生じるコモンな疾患である発作性心房細動は、明確な症状があればホルター心電図で確認できなくても全く否定はできないということを強調させていただいた。スキットでの血栓予防薬はワルファリンではなく10倍も高価なDOACの投与であった。スキットには診察代として3割負担で11,000円というくだりがあったが、特に参加者は医師以外であったので薬局での高い支払いにもスキットの中で言及してほしかった。

初めての参加であったが、学ぶところは多々あり有意義であった。今後、開催日が私が通っているスポーツジム休館日と重なればぜひ参加したいと思う。



参加者に発言を求めるConroy先生

研究会ではConroy先生が順番に参加者の発言を求め、みんなが発言できるような雰囲気になっていてよい講演スタイルであると感じた。心房細動関連のテクニカルタームが多い中、参加された方の発音の美しさに感心した。長く続いている勉強会にはそれだけの魅力があるのだということを実感した。

最後に専門医として「発作性心房細動はどういう疾患か」ということを説明する機会をいただいた。診断には病歴が必須であり、加齢とともに生じるコモンな疾患である発作性心房細動は、明確な症状があればホルター心電図で確認できなくても全く否定はできないということを強調させていただいた。スキットでの血栓予防薬はワルファリンではなく10倍も高価なDOACの投与であった。スキットには診察代として3割負担で11,000円というくだりがあったが、特に参加者は医師以外であったので薬局での高い支払いにもスキットの中で言及してほしかった。

初めての参加であったが、学ぶところは多々あり有意義であった。今後、開催日が私が通っているスポーツジム休館日と重なればぜひ参加したいと思う。

【西宮市 伊賀内科・循環器科 伊賀 幹二】



4年ぶりにリアル開催し、しゃぶしゃぶを囲んだ



スライドで1年を振り返った

2023年12月29日、「木曾路」西宮店で毎年恒例の支部忘年会を開催。新型コロナウイルスの影響を受け、2020年からは「オンライン忘年会」という形式で開催していたため、4年ぶりのリアル開催となった。「リスクマネジメント研究会」でお世話になっている弁護士の高橋万貴子氏もお招きし、

12人が参加した。法貴憲支部長(西宮市・法貴皮膚科)の開会挨拶と乾杯の発声を受け、参加者は料理を囲んで交流を深めた。また、後半には一年の支部の取り組みをまとめたスライドを上映しながら、半田伸夫先生(西宮市・半田医院)の司会で一年間を振り返るとともに、新しい年に向けての抱負を語り合った。

4年ぶりのリアル開催

支部忘年会

一年を振り返り交流楽しむ

世話人会だより

西宮・芦屋支部は1月26日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。5人が参加した。

【I. 最近の診療経験の交流】

- ・2024年度診療報酬改定について
- ・新型コロナウイルス診療・ワクチンなど

【II. 予定・企画】

- ①健康と医療について語り合う会
西宮手話友の会(3・16)
- ②小出裕章氏市民講演会(3・16)
- ③ファイアサイド・ディスカッション
- ④阪神淡路大震災30年のつどい

【III. 報告】

- ①支部忘年会(12・29)
- ②能登半島地震を受けての石川協会訪問
(1・17)

【IV. その他】

- ①ながらスマホ危険啓発キャンペーン
- ②「保険証廃止撤回」自治体請願
- ③2024年度診療報酬改定研究会
(3・28)

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。
次回は3月1日(金)に予定しております。
(2月23日が祝日のため)
支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。